

第71巻の巻頭にあたって

国立医療学会理事長

楠 岡 英 雄

IRYO Vol. 71 No. 1 (3) 2017

新年あけましておめでとうございます。

本誌「医療」も新年とともに巻をあらため、第71巻がスタートしました。すなわち、本誌は満70歳を迎えたことになります。

国立ハンセン病療養所、国立高度専門医療センター、ならびに国立病院機構に働く職員からなる国立医療学会は2つの大きな事業を行っています。一つは毎年秋に開催される国立病院総合医学会で、開催回数は70回を数え、昨年は、村中光会長（九州医療センター）、岩永知秋（福岡病院）、川畑勉（沖縄病院）両副会長のもとで九州グループが担当し、沖縄コンベンションセンター他（沖縄県宜野湾市）で開催され、6,000人近くの参加者がありました。総合医学会は毎年6,000人を超える参加者があり、国内でも有数の規模の学術集会となっています。

国立医療学会のもう一つの事業は、本誌「医療」の発行です。本誌はインパクト・ファクターが付くようなタイプの論文誌ではなく、医師を始めコメディカルや事務職も投稿する、まさにチーム医療を具現化した学術誌であり、他の国内学会誌にはないユニークさが特徴です。また、本誌に発表された論文の中から毎年優秀なものに「塩田賞」を授与しています。塩田賞は、第二次世界大戦後の我が国の医療体制の再構築に尽くし、国立病院の礎を築かれた塩

田広重先生を記念して設立された賞です。

この2つの国立医療学会の事業を比べると、総合医学会はますます発展しつつあり、その基盤も安定しているのに対し、本誌は質は高いものの発表論文の数は決して多いとは言えず、財政的にも苦しい点があります。この両者の違いは、総合医学会は国立医療学会の会員でなくても参加・発表ができ、多数の参加者があるのに対し、本誌は、原則、会員からの投稿を掲載しておりますが、発行費用は各会員の会費に依存しており、会員数の伸び悩みが経営基盤に大きく影響しています。

国立ハンセン病療養所、国立高度専門医療センター、ならびに国立病院機構を合わせると、160以上の医療機関があり、7万人近い人が働いています。この規模を考えると、総合医学会は規模に合っていますが、その基盤となる国立医療学会の会員数は少なすぎる状況です。

国立医療学会の発展のためには、会員数を増やすとともに、本誌への積極的な投稿が必要です。総合医学会での発表を是非論文化し、本誌へ投稿するよう、総合医学会の発表者に勧めていただきたく、お願い申し上げます。また、総合医学会への参加をきっかけに、多くの方に会員となっていただきたいと思います。